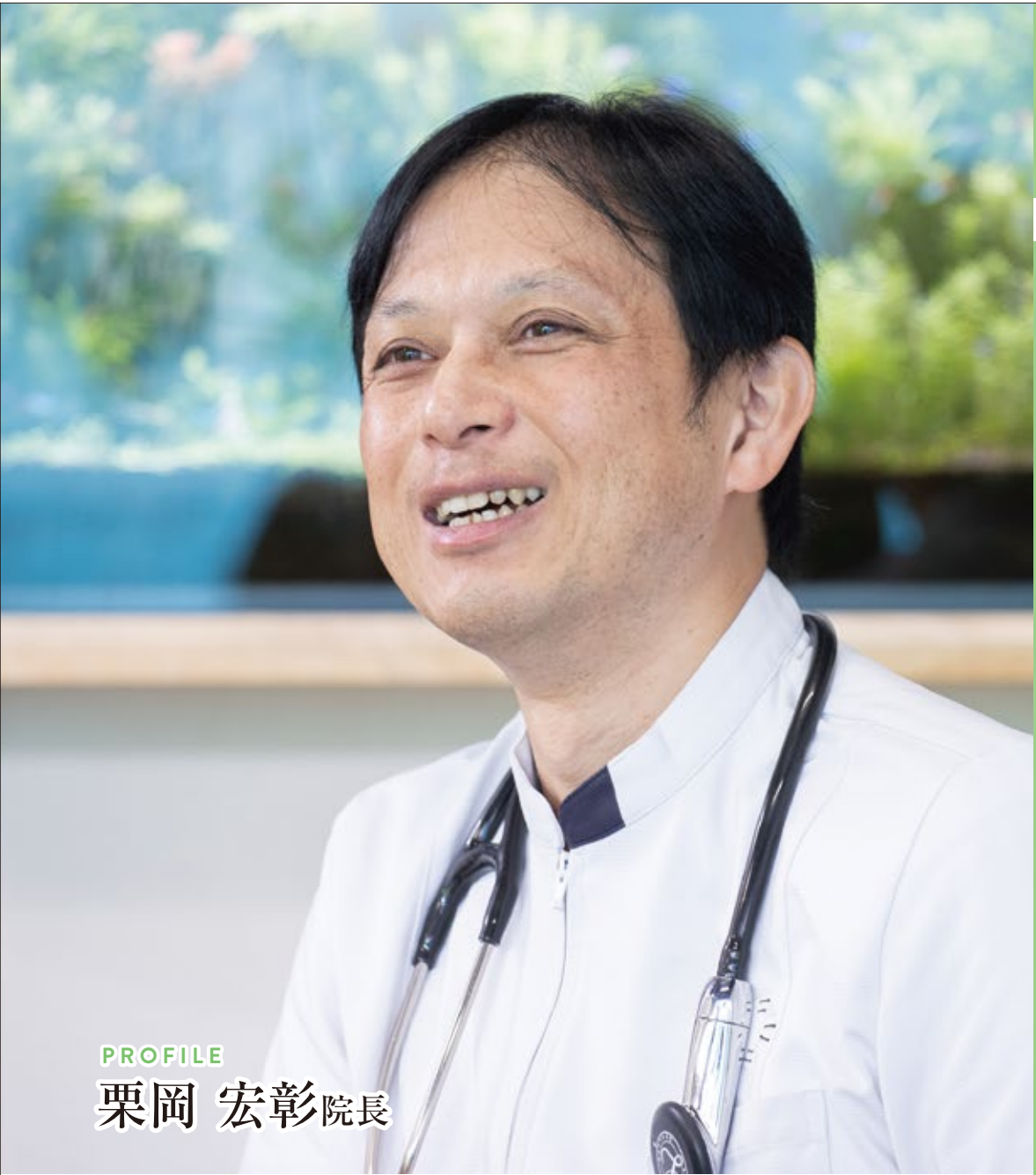




八尾市光町

後悔のない最期のため
在宅療養の環境整備と
広報活動に努める
医療法人 光誠会 しろばとクリニック
●内科・外科



PROFILE
栗岡 宏彰 院長

家族や自分自身の最期を
考えたことはありませんか？

10年以上八尾市の在宅医療を支えてきたしろばとクリニックは今、超高齢社会における在宅医療の在り方を示す一つのモデルとして注目を集めている。日本人の8割が病院で看取られているが、団塊世代が75歳以上になる2025年を目前に控え、病院には全員を看取るだけのベッド数も体制も整っていない。さらに2040年には約41万人が死に場所難民になる試算もあるという。「こうした背景から、終末期の療養は自宅へとシフトしつつあります」。そう話すのは、末期がん・難病・老衰などの患者に対して緩和ケアや看取りを中心とした在宅医療を提供する栗岡先生だ。「病院はあくまでも治療の場。病気が治らなくても患者様やご家族が望めば延命治療をすることでしよう。しかし、治療のために体力を奪われて寝たきりのまま病院で亡くなるのが理想の最期でしょうか？治療から緩和ケアに切り替え、住み慣れた自宅で人生の総まとめのような時間を過ごして最期を迎えるのも選択肢だと思えます。「人生の最期をどんな形で迎えるか、元氣なうちに考えておくことが大切だと栗岡先生は説く。

PROFILE

栗岡 宏彰 先生

【プロフィール】O型 / かに座 / 金沢医科大学卒 / 大阪府出身 / 日本内科学会総合内科専門医、日本救急医学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本緩和ケア学会会員

【趣味】動物が好きなので、自宅ではウサギを、緩和ケアホームでは白い鳩を飼育しています。写真も好きで、ドローンを飛ばして施設の写真を上空から撮影するのも楽しいです

【休日の過ごし方】友達と飲みに行ったり、焼肉屋さんを巡ったり、ホームセンターで陳列されている商品を眺めて過ごすことが多かったです。早く、こういった休日が過ごせる日々が戻ってきてほしいですね

できることがたくさんある
在宅医療という選択肢

家族や自分自身の最期を選択できる時代。自宅で最期を迎えたいと希望する方が多いのにもかかわらず、実際に在宅での看取り率は高くないのが現状だ。栗岡先生は、その原因の一つに在宅医療についての正しい認識が広まっていないことを挙げる。「相談に来られた方に介護保険や在宅医療の制度を説明すると、「そんなことまでできるの？」「もっと早く知っておけば…」と驚かれることがあります。たとえ在宅での看取りを希望していても、無理だろうと決めつけている方が多いのです」。

最後まで患者に寄り添う
2つの施設を設置

同院が在宅療養を支える患者は末期がんや難病など医療依存度の高い高齢者。病気が老衰が進行して在宅療養が困難になった方の受け皿として「しろばとメディカルケアホーム」と「しろばと緩和ケアホーム」を運営している。両施設とも24時間対応可能な医師や常駐する看護師による「医療」と生活全般のお世話を「介護」を受けられる。「在宅療養の延長線上にある施設です。病院のように起床時間や就寝時間などの制限はなく生活は自由。ペットや私物の持ち込みも可能で、自宅に近い環境で過ごせます」と栗岡先生。施設に入れば入りっぱなしというわけではなく、在宅療養中に容態が悪くなった際の一時的な入所も可能で、ギリギリまで施設で過ごし最期は自宅で迎えたいという要望にも応じている。また、日本人の死因1位であるがんに対しては「がん相談外来」を設け、専門の相談員が情報提供や心理的な支援を通じてがんの治療や療養生活

教えて先生!

自宅での介護を考えています。
仕事と両立できるものでしょうか？

仕事と介護を両立している方はたくさんいらっしゃいますが、家族だけで行うのは難しいことも多いです。患者様やご家族が望む形で在宅介護をするためには介護制度を理解し、ヘルパー・看護師・医師などのサポートを受けることが大切です。当クリニックの情報センターでは相談員が常駐し、介護や看取りに関する相談をいつでも受け付けます。疑問や不明点があればお気軽にご来院ください



1. 医療依存度が高い方が療養するための「しろばとメディカルケアホーム」
2. 「しろばと緩和ケアホーム」は、末期がんや難病の方が安心して暮らすための施設
3. 医療知識を深める勉強会など啓蒙活動に取組む

いるが、地域住民だけではなく、医療従事者にさえ知られていないことがある。そこで、栗岡先生は地域に向けた勉強会や講演会を開催したり、看取りの本を執筆。また、医療や介護関連の書籍を所蔵するほか専門スタッフに質問も可能な「しろばと在宅医療介護情報センター」の開設など、多角的な広報活動を通じて在宅医療の裾野を広げている。さらに、医療従事者の横の連携を強化するため「やお多職種連携の会」を発足したり、八尾市で在宅医療に取り組む開業医とのネットワークを構築するなど、在宅医療の質の向上にも余念がない。

ココもチェック



在宅医療の基礎知識や
人生最期の過ごし方を
学べる栗岡先生の著書

10年以上、在宅医療の現場を見てきた栗岡先生が在宅医療を基礎から学べる本を執筆。日本が直面する超高齢社会において、在宅医療や在宅看取りの現状とあるべき姿が実際の事例を交えて書かれており、家族や自分自身の「最期」を考えさせられる。医療従事者も必携の一冊になっている